

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
大学入試準備講習	1	1年1類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHHH	新編 数学I・A (数研出版)	Study-up ノート 数学I+A (数研)	

科目の到達目標
基礎的な計算力と解法の定石を身につける。また、発展問題等を扱い大学入試に直結する学力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、
平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数と式	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	展開・因数分解、無理数の計算、1次不等式、平方完成、2次方程式、2次不等式の計算練習を行う。その後、夏期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	5	実数			
	6	1次不等式			
	7	2次関数			
二学期	10	三角比	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	三角比の相互関係、三角比の値、正弦定理、余弦定理の計算練習を行う。その後、冬期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	11	三角比への応用			
	12				
三学期	1	データ分析	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	分散、標準偏差、相関係数 整式の割り算、分数式と計算、 3次式の因数分解の計算練習を行う。 共通テスト後には共通テストを行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	2	式と証明			
	3				

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)
大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。学力の定着を図るために、教科書や問題集で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。日々の疑問を残すことのないよう質問に積極的に来てください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
大学入試準備講習	1	1年1類	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	英語反復トレーニング② (文英堂)	LEAP Basic	

<p>科目の到達目標</p> <p>本講座では、大学受験に向けて、通常では十分にカバーしきれない部分に焦点を合わせ、より実践的な英語力取得を目指す。一年生では、先ず、基礎となる単語力・文法力をつける訓練をし、勉強することに慣れること第一目標とする。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>評価は平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テストによって総合的に行なう。</p>
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	基本時制と進行形 現在完了形	左記の単元で学習する英文法を反復学習することで理解を深め、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	Listening, Dictation, 英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 授業や課題に真摯に、そして意欲的に取り組んでいる。
	5	過去完了形・未来完了形			
	6	助動詞(1) 助動詞(2)			
	7	助動詞(3)			
二学期	9	受動態(1) 受動態(2)	左記の単元で学習する英文法を反復学習することで理解を深め、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	Listening, Dictation, 英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 授業や課題に真摯に、そして意欲的に取り組んでいる。
	10	不定詞(1) 不定詞(2)			
	11	不定詞(3) 動名詞(1)			
	12	動名詞(2) 分詞(1) 分詞(2)			
三学期	1	比較(1) 比較(2)	左記の単元で学習する英文法を反復学習することで理解を深め、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	Listening, Dictation, 英文和訳、音読トレーニング、Back Translation など多岐にわたる活動を実施。	出席している。 授業や課題に真摯に、そして意欲的に取り組んでいる。
	2	比較(3) 関係詞(1)			
	3	関係詞(2) 関係詞(3)			

<p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。学力の定着を図るために、教科書や問題集で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。まずは学習する習慣を身につけ、この一年で確かな英語力の土台作りをし、自信をつけましょう！</p>
--

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学課外講習（基礎）	2	1年・1類	
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	新編 数学I、新編 数学A（数研出版）		Study-Up ノート 数学I・A（数研出版）

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、
数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考、判断、表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて行う。
具体的には、取り組む姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	(数学A) 第1章 数と式 第1節 整式	整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解	展開、因数分解が速く・正確にできる
	5	(数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定	平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。
	6	(数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式	絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする	絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	6	(数学I) 第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数の最大・最小 最大・最小の応用 2次関数のグラフとx軸との交点	
	7	第3節 2次方程式と2次不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次不等式の解を求めることができるようにする。	2次関数のグラフと2次不等式	グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。
	7				

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。	順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列・組合せの問題を解くことができる。
	10	(数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。 図形に応用できる。
	11	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第2節 確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。	試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率	確率を正確に計算することができる。
		(数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。
	12	第2章 集合と命題	集合についての基本的な事項を理解し、統一的に見ることの有用性を認識する。	集合の表し方、集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶	集合の要素の個数を求めることができる。
	三 学 期	1 2 3	(数学I) 第5章 データの分析 (数学II) 第1章 式と証明 (数学A) 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 式と証明についての理解を深める。 平面図形、空間図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	度数分布表、ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数、分散・標準偏差 2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式 三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線
<p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学I・Aの授業は早いペースで進んでいくので、本講習では問題集(Study-Up ノート数学I・A)の問題演習を基本とし、基礎的な学力の定着を図ります。基本問題を中心として行いますが、授業内容についていくためにも標準問題も取り入れつつ、日々の復習を大切にしていきます。真剣な態度で受講し、講習中だけでなく寮や自宅での学習習慣を身に付けていってほしいと思います。できなかった問題でも何度も繰り返し解くことで理解を深め、確かな学力を身に付けてほしいです。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
英語基礎講習	2	1年I類	選択
授業担当者	教科書名		
HHHHHHH	Big Dipper English Communication 1 Vision Quest English Logic and Expression 1 Vision Quest 論理・表現 Work Book 必携英単語 LEAP Basic ハンドアウト類		

科目の到達目標
・英語コミュニケーション、論理・表現の授業の復習と定着
・基本的な英語力の向上

評価の観点と方法について
授業中の課題、提出物、小テスト、学習態度をもとに評価する。

	月	英語コミュニケーション	論理・表現	具体的な学習内容と方法
一学期	4	Lesson 1	Lesson 1 文の種類	授業の進度に合わせて解説、問題解答に取り組む。定期考査前には交差対策を念頭に授業を行う。
	5	中間考査	中間考査	
	6	Lesson 2	Lesson 2 文型と動詞	
	7	Lesson 3	Lesson 3 時制	
		期末考査	期末考査	

	月	英語コミュニケーション	論理・表現	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	Lesson 5	Lesson 4 完了形	
		Lesson 6	Lesson 5 助動詞	
	10	中間考査	中間考査	
	11	Lesson 7	Lesson 6 受動態	
	12	Lesson 8	Lesson 7 不定詞	
		期末考査	期末考査	
三 学 期	1	Lesson 9	Lesson 8 動名詞	
	2	Lesson 10	Lesson 9 分詞	
	3	学年末考査	学年末考査	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

1年生で学習する内容は今後の基礎となる大切な内容です。本文の音読、授業の復習を通して、普段の授業で理解できなかった部分の補いをすることで、知識の定着を図ります。さらに予習、復習もちろんのことは、参考書を使い自ら学ぶ姿勢を身につけてほしいと思います。苦手な生徒も苦手だからやらないのではなく、苦手なりに精一杯の努力を続けてほしいと思います。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学課外講習(指名者)	2	1年・1類	
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	新編 数学I、新編 数学A (数研出版)		Study-up ノート 数学I+A (数研)

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、 数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点の観点に基づいて 具体的には、取り組み姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	(数学A) 第1章 数と式 第1節 整式	整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解	展開、因数分解が速く・正確にできる
	5	(数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小	2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 2次関数の最大・最小	平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。
	6	(数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式	絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする	絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	7	(数学I) 第3章 2次関数 第3節 2次関数と方程式・不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次不等式の解を求めることができるようにする。	2次関数のグラフとx軸との交点 2次関数のグラフと2次不等式	グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
二 学 期	9	(数学I) 第2章 集合と命題	集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。	集合の表し方, 集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶	集合の要素の個数を求めることができる。	
	10	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ	具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。	順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列・組合せの問題を解くことができる。	
	11	(数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。図形に応用できる。	
	12	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。	試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率	確率を正確に計算することができる。	
	12	(数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。	
	12	(数学A) 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質	平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線	三角形の重心・外心・内心に関する角度および長さを求められる内接四角形の性質を理解し、角度・長さを求められる。	
	三 学 期	1	(数学I) 第5章 データの分析	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	度数分布表, ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数, 分散・標準偏差	
		2				
		3	(数学II) 第1章 式と証明	式と証明についての理解を深める。	2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式	多項式の計算が正しくできる。
	<p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>数学Iの単位が3, 数学Aの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。この講習では、問題集(テーマ数学IA)の問題演習をする。数学I、Aの授業についていくためにも復習を必ず行いたい。基本問題を中心に進めていくが、数学I、Aの授業についていけるように標準問題も取り入れていくつもりである。真摯な態度で受講することを強く望む。日々継続した学習を心がけて、寮や自宅での学習習慣を身に付けてもらいたい。何度も何度も繰り返し問題を解いて、本当の学力をつけてほしい。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習 (英語)	2	1年・1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHHH	BIG DIPPER English Communication I (数研出版) Vision Quest English Logic and Expression I (啓林館)		必携英単語 Leap Basic (数研出版) ベーシックノート (数研出版) Vision Quest ワーク (啓林館)

科目の到達目標
【Reading】 簡単な説明文を理解することや、図や表から情報を得ることが出来る。
【Listening】 日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することが出来る。
【Writing】 興味関心のあることについて簡単な文章で書くことが出来る。
【Speaking】 興味関心のあることについて自分の考えを述べる事が出来る。

評価の観点と方法について
積極的に授業に参加しているか。
課題や提出物を、しっかりと仕上げているかどうか。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	Lesson 1 (EC I)	○朝食の大切さ, 理想的な朝食について考える	○過去形・現在形・未来を表す表現 / 現在完了 / 現在進行形 / 命令文(レシピ)	○単語を覚えているか【テスト】
	5	Lesson 1 (LE I) 文の種類			○内容理解できているか【発表】
		Lesson 2 (EC I)	○町おこしのキャラクターの役割について考える	○文型①<SVC> <SVO> / 不定詞<to+動詞の原形> / 動名詞	○積極的に活動しているか【観察】
	6	Lesson 2 (LE I) 文型と動詞			○理解できているか【テスト】
		Lesson 3 (EC I)	○2つのタイプのリーダーシップについて考える	○受動態<be 動詞+過去分詞> / 関係代名詞 who・which・that / 文型②<SVOO> <SVOC>	○自分の意見を言えているか【観察・態度】
7	Lesson 3 (LE I) 時制				
夏休み					

	月	学習単元・項目	学習のねらい		評価のポイント	
二 学 期	9	Lesson 5 (EC I) Lesson 4 (LE I) 完了形	○芸術の世界にまで進出する AI[人工知能]について考える	○名詞を修飾する分詞/形式主語 (It is ~ that) / 形式主語 (It is ~ (for A) to do) ○過去完了 (had+過去分詞) / 関係副詞 where / 関係副詞 when	○単語を覚えているか【テスト】 ○内容理解できているか【発表】 ○積極的に活動しているか【観察】 ○理解できているか【テスト】 ○自分の意見を言えているか【観察・態度】	
	10	Lesson 6 (EC I) Lesson 5 (LE I) 助動詞	○世界の人々の「幸福度」の違いについて知る			
	11	Lesson 7 (EC I) Lesson 6 (LE I) 受動態	○人気の観光地が抱える問題について考える	○SVOC (V=知覚動詞・使役動詞, C=原形不定詞) / SVO+to 不定詞 / SVOC (V=知覚動詞, C=現在分詞)		
	12	Lesson 8 (EC I) Lesson 7 (LE I) 不定詞	○世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro について知る	○関係副詞 how / 関係代名詞 what / 関係副詞 why / 強調構文 (It is [was] ~ that)		
	冬休み					
	三 学 期	1	Lesson 9 (EC I)	○ゴミの再利用の新しい形「アップサイクル」について考える	○つなぎ表現 / 分詞構文①「~するとき」 / 間接疑問文 / 現在完了進行形 (have [has] been ~ing)	○単語を覚えているか【テスト】 ○内容理解できているか【発表】 ○積極的に活動しているか【観察】 ○理解できているか【テスト】 ○自分の意見を言えているか【観察・態度】
2		Lesson 8 (LE I) 動名詞				
3		Lesson 10 (EC I) Lesson 9 (LE I) 分詞	○日本の会社における雇用の多様性について考える	○仮定法過去 / 分詞構文②「~して, そして…」 / 過去の習慣 would / 助動詞+be+過去分詞		

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

日々の予習、復習を大切にしてください。

この1年間、ゆるぎない英語力を定着させるための土台づくりに励みましょう。